



国際会長 (IP) Henry Grindheim (ノルウェー)

“Let Us Walk in the Light—Together” 「ともに、光の中を歩もう」

“Fellowship across the Border” 「国境なき友情」

会長 舟田 正夫
副会長 古賀 健一郎
書記 伊藤 誠彦
会計 古田 和彦
直前会長 金子 功

アジア地域会長 (AP) Tung Ming Hsiao (台湾)

“Respect Y's Movement”

「ワイズ運動を尊重しよう」

東日本区理事 (RD) 栗本 治郎 (熱海)

「広げよう ワイズの仲間」

“Extension Membership & Conservation”

湘南・沖縄部部長 (DG) 金子 功 (横浜)

「Y'sの絆を強め、広げよう」

“Let's Tighten and Expand the Bonds of Y's Men”

横浜クラブ会長 (CP) 舟田 正夫

「YMCA とともに！」

“Together, with YMCA!”

監事 松島 美一
ブリテン 古賀 健一郎
野村 郁雄
担当主事 青木 一弘

<今月の聖句>

青木 一弘

「明日のことを思いわずらうな。明日のことは、明日自身が
思いわずらうであろう。」

(マタイによる福音書6章34節)

今月のひとこと

「この美しい鳥の声に」

古賀 健一郎



『新しい賛美歌をつくろう』という
呼びかけに応募された、自作のみんな
で歌える、『これもさんびか』を發表
し合おうという『これもさんびかを歌
う会』に初めて参加した。その中で、
特に『この美しい鳥の声に』の曲と作
者の次のコメントは私の心に響いた。

「私の住むところは、隠岐諸島の中にあるとても小さな離島で
す。ここにはここにしかない花や虫、珍しい野鳥などがたく
さん住んでいます。あるとき道端にとともきれいな花が咲い
ていて目に留まったのですが、その花が自分の言えないこと
を代わりに言って欲しいと訴えているような気がしました。

最近では島の珍しい花を根こそぎ取っていったり、虫を取って
高い値段で売ったりすることもあるようです。とても心が痛
みます。私たちはどれだけこの地球にある生物たちを大切に
しているのでしょうか？そして悲しい災害があとを絶たない
この世界で私たちのすべきことは何のでしょうか？そんなこ
とを考えながら作った歌です」(ご参考—歌詞と曲はどうぞ
You Tube でお聴き下さい。『この美しい鳥の声に』と検索す
ると動画「この美しい鳥の声にマイムービー」を見られます)

東日本大震災と福島第一原発事故から、7年になる。あま
りにも悲しみに満ちた惨状を31文字に託した地元の人たち
の『ふるさとを怒りとともに避難する 何もわりごどしてもね
えのに』は私に突き刺さる。原爆に苦しんだ広島と長崎、沖
縄の米軍基地問題など、など……。重い痛みを背負い、他者
との意識差に傷つき悩みながら闘ってきた全国の地域がある。
今も心が癒されないままでおられる方々のことを想うと、悲
しみにある方々の心の平安を祈り続けていきたい。そして私
にできることは何かを問い続け、ともに長い道のりを歩き、
自分ができることから実行に移していきたい。

<2017年2月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
17名 (功労 会員1 名を含 む)	メン 12名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 1名 合計 13名	81 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正出 席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<3月の行事予定>

強調月間「BF、メネット」

日	曜	時間	行事内容	場所
3	土		次期クラブ会長・部	東山荘
4	日		役員研修会	
6	火	19:00	第80回Y-Y協議会	中央YMCA
8	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央YMCA
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央YMCA

「2月例会報告」

金子 功

日時：2月8日（木）18：30～20：20

場所：横浜中央YMCA501号室

出席者：青木、伊藤、今村、大江、大高、金子、神村、古賀
齋藤、舟田、古田、松島

卓話者：政金 驍（まさかね たけし）氏

例会は、金子ワイズの司会により定刻に始められた。舟田会長による開会点鐘、挨拶に続いて、今月2日に94才の天寿を全うされ天に召された高杉治興ワイズの冥福を祈る黙祷が捧げられた。

ワイズソング、ワイズの信条を唱和した後、今月の聖句（マタイによる福音書5章44～45節）が金子ワイズによって朗読され、この聖句を選んだ理由が説明された。

今月はTOF強調月間で食事なしの例会である。舟田会長より今月の卓話者政金驍氏が紹介され、直ちに卓話となった。卓話のタイトルは、「地域ボランティアと海外ボランティア」と題してで、本人が在住する二宮町でのボランティア活動とJICAからシニアボランティアとしてアフリカのマラウイ共和国に派遣された時の経験をパワーポイントの映像を通してお話いただいた。



二宮町での地域奉仕は、町内の葛川清掃や、町内のイベント、菜の花祭りや、桜の時期には富士山をコラボした祭り等に参画したと言う。

石油会社退職後、JICAの海外シニアボランティアに興味を持ちアフリカのマラウイ共和国にボランティアとして派遣されることになったが、派遣されるまでの経緯は家族の説得から、資格試験、65日間と言う事前研修とかなり厳しいものであったという。

マラウイ共和国は鉱山資源に乏しく産業と言えば農業中心で極めて貧しい国である。電気は夜の8時には停電となり、村民は夜明けとともに起き、日没とともに寝る生活である。食べ物主としてトウモロコシの粉をこねたものを平べったく焼いたもので味付けは塩のみである。調味料は塩以外には一切なしである。

現地ではマラウイ国南部にある町の役所に席を置き自動車整備の指導をする仕事であった。3年間の滞在中、故障整備

から予防整備の観念を植え付けようとしたが、それは国情がゆるさなかった。

滞在中、身の危険を感じるような経験もしたが、「アフリカの温かい心」と呼ばれるマラウイ国で感じたことは貧しいけれども心は豊かな国、知らない人とも挨拶を交わす大変フレンドリーな人達、日本とは極めて良い関係にあるとのことであった。

政金氏は、現在はJICAシニアボランティアのOB会NPO法人シニアボランティア経験を活かす会の理事長である。

卓話の後には、舟田会長の司会でビジネスをレビューし、青木、大高両ワイズのバースデーを祝って20：20に閉会した。

「横浜YMCA会員大会報告」

古田 和彦

2月12日（月・休）午前10時から午後2時半過ぎまで、横浜YMCA会員大会が湘南とつかYMCAで開催されました。世間ではこの日を祝日（建国記念の日）としていますが、キリスト者たちはこの日が戦前の軍国主義体制の基になっていたことから祝日とは捉えず、平和で共に歩む社会の建設のために学び合う日としています。

10時、1階ホールで開会礼拝。ことしは、ドラムサークルの方々の音頭で、参加者全員の合奏で開始しました。讚美は「幸せなら手をたたこう」、聖書朗読、祈り、「横浜YMCA—私たちの使命」を交読し、「手のひらを太陽に」を讚美し、会員事業委員会委員長の鈴木茂ワイズの挨拶で始まりました。礼拝に続いて、広島ピースキャンプの参加者から広島被爆地を訪れた体験を通して、後ほどパフォーマンスを披露された曲芸師・芸術家の天野耕太さんからは自身の体験から、神奈川県立保健福祉大学名誉学長の阿部志郎さんからは戦争体験を通して、それぞれ平和へのメッセージが伝えられました。



特に阿部志郎さんからは、軍国主義の青年時代に何の疑いもなく戦争協力に身をささげることになってしまった反省と、その原因の教育について語られました。本当の学びとは知識を得ることだけではなく、多くの情報の中から、正しいものと誤っているものを見分けることのできる力、つまり、自分で物事を判断できる知性を身につけることである旨が語られました。昼食は準備されたものをいただき、2階教室に用意されている平和のアクティビティを多くの方がみて、平和への思いを改めて思い直す時となりました。午後、ふたたび、1階ホールで天野耕太さんによるバランスパフォーマンス、バランスの妙をハラハラして見物しました。クロージングは再び、ドラムサークルの音頭で合奏し、午後2時35分田口総主事の挨拶で終了しました。ドラムサークルでの共同演奏、また、平和を考えるよい学びの会でありました。感謝します。

出席者：伊藤メン・メネ、大江、金子、古賀、田口、古田。

「部長沖縄公式訪問」

松島 美一

恒例の湘南・沖縄部長沖縄公式訪問は2月3日(土)午後6時30分より沖縄YMCAにおいて行われました。この会は沖縄那覇クラブと沖縄クラブの合同例会も兼ねていました。沖縄那覇クラブの比嘉善彦ワイズの司会で始まり、玉城哲人会長の開会点鐘、ワイズソング、ワイズ信条の後、芳澤信牧師の聖書朗読と奨励がありました。次いで沖縄那覇クラブ玉城哲人会長、沖縄クラブ宮里伸一郎会長のあいさつと報告、金子功湘南・沖縄部長と知念一郎沖縄YMCA理事長のあいさつと進みました。芳澤信牧師の沖縄那覇クラブへの入会式も行われ、金子功部長が立会人となりました。知念理事長からは印刷されたばかりの「沖縄YMCA55年史」が配られました。最後は一同のYMCAの歌、宮里会長の閉会点鐘で例会プログラムを閉じました。

次いで屋良政旦ワイズの司会による懇親・交流会に移り、大森節子ワイズの食前感謝、小原武夫ワイズの乾杯で始まりました。食事はすべて大森節子ワイズの沖縄風味溢れた手作り料理と言う豪華版、会食、懇談、余興と賑やかに懇親の実を挙げ、定刻午後8時30分お開きとなりました。

その後も場所を変え、カラオケとアルコールの賑やかな2次会が続きました。

湘南・沖縄部からは横浜クラブの青木一弘、伊藤誠彦メン、メネ、金子功、松島美一、厚木クラブ佐藤節子次期部長、つづきクラブ鈴木茂、それに東京世田谷クラブ小原武夫の各ワイズが参加しました。

翌2月3日(土) 沖縄那覇クラブ担当者による特別エクスカッションを楽しみつつ、往時の沖縄戦を偲びました。沖縄のワイズの皆様ありがとうございました。

「日本語スピーチコンテスト報告」

伊藤 誠彦

2月23日13時30分から横浜中央YMCA9階のチャペルにおいて、横浜YMCA学院専門学校日本語学科の第5回日本語スピーチコンテストが開催された。

日本語学科の安富さんの司会のもと、舟田会長、田口横浜YMCA総主事の挨拶に続いて、審査員5名の紹介。昨年について恵泉女学院の秋元教授、神奈川県青年国際交流機構の梅本事務局次長の他に、YCJサポーターの山本さん、横浜クラブからは伊藤、古田ワイズが務めた。

スピーカーは、韓国2名、タイ2名、ベトナム、台湾、カメルーン、フィリピン、ミャンマー、スリランカから各1名の8カ国、10名の多彩な顔ぶれ。約70名の聴衆を前に身振り手振りを交え、時には歌を披露しながら、いずれ劣らぬ熱弁を競った。

入賞者発表の後、生井校長より閉会挨拶があり、次回から会場を外部に移し、一段と規模を大きくしてコンテストを開催したいとの決意が語



チャーリー・エリックさん

られた。

会場を8階の教室に移して、大高ワイズの司会の下、交流会が開かれた。健闘を讃える表彰式では、最優秀賞に「笑顔の力」のカメルーンのチャーリー・エリックさん、優秀賞に「基本的、そして深い日本」の韓国のパク・ジミンさん、(株)共立メンテナンス賞に「日本は私にとって」のミャンマーのハウ・ナイ・リャンさん、神奈川県国際交流機構賞に「言葉の力」の台湾のクワン・チュウイェンさんに、それぞれのスポンサーから賞状と副賞が、そして、惜しくも賞にはもれたスピーカーには努力賞が贈られた。

秋元先生による全体講評の後、入賞者による挨拶、金子ワイズによる閉会のことばで会は終了した。

日本語学科の平岡先生をはじめとするスタッフの方々の頑張りにより、コンテストは円滑に運営された。また、大高ワイズのご尽力で今回から新たに(株)村田製作所が協賛に加わってくださり、3名のOBの方々が参加して下さいました。また、横浜つづきクラブからは今回も岡田ワイズ夫妻が参加して下さいました。皆様へ感謝です。

横浜クラブの参加者は、伊藤メン・メネ、大高、金子、古賀、田口、舟田、古田の8名。

「近況報告」

大江 浩



「3.11」は、7回目の記念日を迎えます。あの未曾有の大災害は、日常では「過去」の出来事と化しつつありますが、「記念日現象」の如く各種メディアが災害特番を組んでいます。今も約7万7千人の方々が全国各地に避難を余儀なくされ、復興住宅における被災者の「孤独死」も深刻です。フクシマの現実も、「現在進行形」ながら「遠い現実」のように忘却の彼方にあります。私にとっての大災害の体験は、「1.17」。1995年1月17日、阪神・淡路大震災でした。私の人生はすべて、あの1.17によって変わりました。「生」と「死」は身近な問題となり、人は何故、誰と共に生きるのか、との根本的な問いが突きつけられながら、23年以上たつ今も、答えが見いだせていません。

さて私は、東日本大震災の支援スタッフの心のケアのための「支援者の心のリフレッシュプログラム」に、臨床心理の専門家の協力を得て関わり続けています。このプログラムは、開始してから早4年。年3回のペースで、日本YMCA同盟と日本NPOセンターとの協働企画としてYMCA東山荘を拠点に行っているものです。「支援者のケア」は、日本の社会ではあまり顧みられることがない問題ではありますが、大変大事なテーマです。それは災害という非日常のみならず、日常的な「対人支援」に関わる(例えば、子育てや介護にも通じる)切実な事柄です。

今も活動に従事する支援者には自らも被災者として、災害に伴う喪失体験やトラウマを抱え、「生き残ったことの罪責感」に苦しむ方がおられます。活動を続ける中で心身ともに疲弊し、「孤立・孤独」の暗闇の中で、支援自体が無意味に思えたり、自己肯定感が低く、出口の光が見えないなか、歩んでおられる方もおられます。被災された方々への祈りと共に、支援に携わっておられる方々のためにも祈り、支えていきたいと思えます。共に生きる社会の一員として。

第二例会報告

舟田 正夫

日時：2月22日(木) 17:00～19:00

場所：横浜中央YMCA 501号室

出席者：青木、大高、金子、古賀、舟田、古田

協議・確認事項報告

今後の行事予定の確認

高杉功労会員召天への対応 伊藤ワイズ

第5回日本語スピーチコンテスト

横浜YMCAと横浜クラブの共催

13:30～15:30 スピーチコンテスト 9階 チャペル

15:40～16:30 交流会 8階 812教室

開会の挨拶 舟田ワイズ、田口総主事

審査員 横浜クラブより2人 伊藤ワイズ、古田ワイズ

交流会司会 大高ワイズ

次期クラブ会長・部役員研修会

3月3日(土)～3月4日(日)

横浜クラブより参加3人 伊藤ワイズ、古賀ワイズ、古田ワイズ

横浜クラブ一泊研修会

小グループで今後の横浜クラブの方針を打ち合わせる。

場所：上郷森の家、開催可能日：下の月日から決める。

1) 5月11日(金)～12日(土)、2) 5月18日(金)～19日(土)、3) 5月25日(金)～26日(土)

会員増強のための横浜クラブのチラシ作成

金子ワイズ作成のドラフトをたたき台として今後会員の意見を聞く。

EMCシンポジウム 2月17日(土) 東京YMCA山手台センターで開催

横浜クラブ古賀ワイズがスピーカーとして参加

3月号ブリテン編集 寄稿期日3月2日(金)

卓話予定

3月8日(木) 「国際観光よもやま話」 永見正敏氏



担当主事 青木 一弘

○YMCA会員大会 終了報告

今年度もYMCA会員大会へのご協力ありがとうございました。子どもから大人まで、どなたでもともに楽しめる内容として、これまでとは少し違う新たな試みでしたが、いかがでしたでしょうか。プログラム会員の皆さんや、ワイズ、各委員の方、スタッフ、一般の方と交流し、平和を感じる機会であったならば幸いです。(当日の参加者は約340名でした。) 私たち一人ひとりが「平和」を求め、みつけ続けることは、「思い」や「行動」につながり、そして、一人ひとりから世界が「平和」になり、よくなっていくことをあらためて学ぶことができた大会であったと思います。

○横浜YMCA 3.11を忘れない活動報告

県内のYMCA活動拠点で、3.11東日本大震災を忘れないための活動や取り組みが行われています。これからはYMCAでは、東日本及び熊本大震災被災地・被災者のための支援

活動を継続していきます。引き続きご支援をよろしくお願い致します。

○イースター早天礼拝のお知らせ

下記のとおり、横浜YMCA・YWCA合同イースター早天礼拝を行います。是非ご参加ください。

日時 4月1日(日) 午前7時～7時45分

※7時50分より茶話会/8時30分より外国人墓参

会場 横浜中央YMCA 9階チャペル

メッセージ：荒井 仁牧師(日本キリスト教団紅葉坂教会)

参加費 500円

○中央YMCAキックオフミーティングのお知らせ

中央YMCAでは、2018年度のプログラム開始にあたり、各部のスタッフや運営委員の方々が集い表記ミーティングを予定しています。会では、今年度の方針・計画の確認や軽食をとりながら歓談のひと時を予定しています。ワイズの皆様も是非ご参加ください。

日時：4月4日(水) 午後6時30分～8時

会場：横浜中央YMCA 8階ラウンジ(軽食の用意があります)

3月例会プログラム

日時：3月8日(木) 18:30～20:30

場所：横浜中央YMCA 501号室

司会：今村ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶 舟田会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 . . . 全員
3. 今月の聖句 青木ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介 舟田会長
5. 食前感謝 青木ワイズ
6. 食事
7. 卓話 「国際観光よもやま話」
シニアボランティア経験を活かす会(SV会)
監事 永見正敏さん
8. ビジネス・報告 舟田会長、他
9. **Happy Birthday**
金子久子(3) 古賀智子(3) 金子功(10)
遠藤三起子(10) 古田和彦(22) 高杉文代(31)
10. 閉会点鐘 舟田会長

例会報告：今村ワイズ

4月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
12	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央YMCA
21	土	15:00	第3回部評議会	中央YMCA
26	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央YMCA

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-641-5785